

LNG300GA

国際社会演習 - アートは国境を越える?! - 間文化性研究 -

春学期担当：桐谷 多恵子，秋学期担当：熊田 泰章

配当年次/単位：3~4年 / 4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミのテーマは文化研究であり、国際文化学部の英語表記にも含まれる概念： **Interculturality** <インターカルチュラリティ/間文化性>を研究する。研究の目的は、「アート」を通して文化や民族の異なる人々が個々の文化の独自性を互いに尊重し、共生する社会を考察することにある。そのための最初の一步として、文化の多様性が成り立つ仕組みとしてのインターカルチュラリティを学ぶ。

具体的には、芸術は「文化」をどのように表現できるのか。あるいはそれが「文化」を志向/思考する上でどんな役に立つのか。これらの問いについて、基本文献を手掛かりにディスカッションを行い、考察する。考察することは、「自分の頭で考える」という事である。自分の頭で考えるには、2つの作業が必要である。一つは、事実関係の確認が必要であり、参考になる資料をきちんと探すこと。研究では、先行研究をしっかりと把握することが出発となる。二つ目は、自分たちの取り組んでいる個別の「文化」の事例を、いつも広い問題領域の中で位置付け、考えようとする姿勢である。ゼミでは、それぞれの地域文化に着目しつつ、それらが織りなす国際文化に視野を広げ、社会の諸相における文化の関係性と躍動性を研究する。

基本文献を読み込む理論研究に加えて、間文化性を身体性として確認するために、現代アートを共同研究テーマとして発表する。現代アートが、地域文化を再確認しつつ国際文化の関係を構築するために大きく貢献していることを明らかにする。また、作品が成立するための主たる行為者を製作者ではなく、作品を鑑賞する受容者として要求する作品——例えば、マルセル・デュシャン『泉』——を考察し、「作品の内在性と受容者の能動性」を学ぶ。この考察を通して、私たちが生きる「文化」が、存続の危機にさらされる時に、その持続のために、当事者である私たちが何をすることが可能なのかを考えることが、ゼミの課題である。それを、共通討議によって学問的に考察し、一人一人の論文として書くこと、そして、インスタレーションによって表現することを、一年間のゼミ活動を通して達成する。

【到達目標】

国際文化学部の基本概念： **Interculturality** <インターカルチュラリティ>を理解し、文化の生成と変化の仕組みを把握する。

学術論文を精密に読み、学術研究の基本を身に付ける。

学術研究の基本に即して論文を書く。

各自の研究テーマを決め、研究成果を発表する。

【授業の進め方と方法】

基本文献と英語論文を読み、討論する。

個人研究発表を行なう。

現代アートの展覧会を見に行く。

作品制作と発表を行なう；春学期に1回、秋学期には学部学会で発表する。

個人研究論文集を作成する。

ゼミ合宿として各地の現代アート国際展などを訪ねる。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミ運営について決定
2	基本文献 『オリエンタリズム (上)』第1章第1回	基本文献第1章担当者レポート と全員の討論・エクササイズ

3	基本文献 『オリエンタリズム (上)』第1章第2回 英語論文第1回	基本文献第1章担当者レポート と全員の討論・エクササイズの 第2回 英語第1回のレポート・全員の討 論
4	基本文献 『オリエンタリズム (上)』第2章第1回 個人研究構想発表第1 回	第2章第1回 個人研究構想を順に発表する第1 回
5	基本文献 『オリエンタリズム (上)』第2章第2回 個人研究構想発表第2 回	第2章第2回 個人研究構想発表第2回
6	基本文献 『オリエンタリズム (上)』第2章第3回 作品構想第1回	第2章第3回 作品制作の構想について討論第1 回
7	基本文献 『オリエンタリズム (下)』第1章第1回 作品構想第2回	第1章第1回 作品制作の構想について討論第2 回
8	基本文献 『オリエンタリズム (下)』第1章第2回 作品制作第1回	第1章第2回 作品制作第1回
9	基本文献 『オリエンタリズム (下)』第2章第1回 作品制作第2回	第2章第1回 作品制作第2回
10	作品発表会	作品発表と解説を行う
11	『オリエンタリズム (下)』第2章第2回 作品発表総括	第2章第2回 作品発表の振り返りとまとめ
12	基本文献 『オリエンタリズム (下)』第2章第3回 個人研究発表第1回	第2章第3回 個人研究発表と質疑第1回
13	英語論文第2回 個人研究発表第2回 まとめ	個人研究発表と質疑第2回 このセメスターの総括
14	秋学期	
回	テーマ	内容
15	イントロダクション	秋学期ゼミ運営について決定
16	基本文献 『イメージ・リテラ シー工場』第1章	基本文献第1章担当者レポート と全員の討論・エクササイズ
17	基本文献 『イメージ・リテラ シー工場』第2章 個人研究中間発表第1 回	第2章 個人研究の中間発表と質疑第1回
18	基本文献 『イメージ・リテラ シー工場』第3章 個人研究中間発表第2 回	第3章 個人研究の中間発表と質疑第2回
19	基本文献 『イメージ・リテラ シー工場』第4章 個人研究中間発表第3 回	第4章 個人研究の中間発表と質疑第3回
20	英語論文第3回 作品構想第1回	英語第3回 作品制作の構想について討論第1 回
21	基本文献 『イメージ・リテラ シー工場』第5章 作品構想第2回	第5章 作品制作の構想について討論第2 回

管理 ID：
1805009
授業コード：
C1128

22	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第6章 作品制作1回	第6章 作品制作開始
23	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第7章 作品制作第2回	第7章 作品制作継続
24	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第8章 学部学会発表準備 作品制作	第8章 最終準備ゲネプロ
25	学部学会発表総括と次年度準備	発表の総括と次年度に向けての討論
26	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第9章 最終個人研究発表1回目	第9章 年度締めくくりの個人研究発表と質疑第1回
27	基本文献 『イメージ・リテラシー工場』第10章 最終個人研究発表第2回	第10章 最終個人研究発表と質疑第2回
28	今年度のまとめ	今年度の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・英語論文を系統的に読み、学習ノートに書き込み、整理する。

学習ノートは、準備学習 ⇒ 授業内 ⇒ 復習で順次参照し、書き込んでいく。

学術用語・人名などは、学習ノートに書き込み、自分自身で編集した辞典・事典として活用する。ゼミ活動の一環として現代アート展覧会を訪ねる。

【テキスト（教科書）】

基本文献：

1. エドワード・W. サイド『オリエンタリズム』（上下）今沢紀子訳、平凡社、1993年
2. ジャン＝クロード・フォザ他『イメージ・リテラシー工場－フランスの新しい美術鑑賞法』犬伏雅一他訳、フィルムアート社、2006年
3. ジェラルド・ジュネット『芸術の作品I－内在性と超越性』和泉涼一訳、水声社、2013年
4. アゴタ・クリストフ『悪童日記』堀茂樹訳、早川書房、1991年
5. ツヴェタン・トドロフ『個の礼賛－ルネサンス期フランドルの肖像画』岡田温司・大塚直子訳、白水社、2002年
6. ジョン・A・ウォーカー／サラ・チャップリン『ヴィジュアル・カルチャー入門－美術史を超えるための方法論－』岸文和他訳、晃洋書房、2001年

英語論文、もしくは、関連する英文記事（例えば以下のような英文記事）：

1. Ishiguro, K. My Twentieth Century Evening - and Other Small Breakthroughs [Nobel Lecture]. The official website of the Nobel Prize; 2017 December 7 [cited 2017 December 10]. Available from:

https://www.nobelprize.org/nobel_prizes/literature/laureates/2017/ishiguro-lecture_en.html

2. Miyake, I. A Flash of Memory [New York Times]. 2009 July 13 [cited 2017 December 10]. Available from:

<http://www.nytimes.com/2009/07/14/opinion/14miyake.html>

【参考書】

1. 熊田泰章編『国際文化研究への道 - 共生と連帯を求めて』彩流社、2013年
2. 熊田泰章「唯一であることの相対的価値についての試論」、法政大学国際文化学部『異文化論文編（15）』、2014年

【成績評価の方法と基準】

発表と討論（50%）、個人研究（50%）によって評価。

基本文献で展開される概念を理解し、理解したことを発表することが重要です。基本概念をふまえて、個人論文で論証力を鍛錬します。

【学生の意見等からの気づき】

学生によるゼミ運営についての提案を受けて授業を進めています。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ないし各自のパソコン持参が望ましい。

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

アートを通して国際社会を分節する！

Articulate the international community with art!